

地質ニュース

昭和 53 年 3 月

第 283 号

1978

東海北陸特集

- 東海北陸地方の地質展望 近藤善教・1
- 化石から見た東海地方 森下晶・8
- 濃尾平野 ～その自然史と社会史との交流～① 桑原徹・21
- 跡津川断層 最近の話題から 野沢保・28
- 阿寺断層を追って(その1)
 恵那山トンネルから付知まで 山田直利・37
- 東海北陸地方の窯業原料 下坂康哉・50

編集 地質調査所

表紙の写真

名古屋城の石

金の鯉で有名な名古屋城は、名古屋の中心から少し北よりの熱田台地の北西端にたっている。この城は戦災で焼失し戦後再建されたので古城の面影は薄い。まわりの石垣にはなお350年余の歴史が秘められている。石垣の石の種類は花崗岩とよばれるものが多いが、厳密に言えば大部分は花崗閃緑岩である。このほか数は少ないが、眼球片麻岩、注入片麻岩、石英閃緑岩などもある。また南濃の河戸石とよばれる古生層の砂岩も入っている。これらの石は美濃三河遠くは西国四国などから約9万個集められたといわれている。石垣の石にひょうたんくし刺し団子などの符号が刻まれており、石集めに苦勞した大名の姿がしのばれる。ある岩石学者の意見によると、石の大部分は領家帯の花崗岩や変成岩類(約7千万年ないし1.3億年前)のもので、飛騨の片麻岩や熊野の酸性岩を用いた形跡はないという。

一朝日新聞 地史探訪より(1977.4.30) -

(近藤善教)

発行 株式会社 実業公報社